

チャペル週報

No.9

2016.6.6 ~ 6.10

愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。

愛は自慢せず、高ぶらない。

(コリントの信徒への手紙一13章4節)



タンバス記念礼拝堂(神戸三田キャンパス)

関西学院宗教センター

距離の取り方

李 恩 子

今年の「母の日」の朝、以下のようなメールを受け取った。

Mother hold their children's hands for a short while, but hearts forever. Happy Mother's day!

短いこの文章をずっと読み終えた瞬間、何の意味が込められているのかわからなかった。もう一度、読み直し、「親」としての自身を省みた。どれ位娘を傷つけてきただろうかと思いながら、まったくその通りだと納得した。一方でメールを送る、あなたはどゆなのと尋ねたい衝動にもかられた。しかし、よくよく考えてみると、感謝の意の表現になるHappy Mother's Day!を送ってきたのだから、私に反省を促すためでないことは明白である。むしろ、送る側も自分の子供を傷つけてきたことに反省していることを伝えたい、あるいは共有したいという意思表示だったのかもしれないとも思った。

いずれにしろ、親子間だけではなく人は、残酷にも互いを傷つけて生きていることが多いのではないかと思う。意図せずしてであっても結果的に傷つけることがよく起こる。親子、兄弟姉妹、友人、同僚、教師と学生、恋人、諸々の関係性の中で、時には意識的に時には無意識的に他者を傷つけてしまっている。互いを傷つけあいながらも一方で、それぞれの関係性はとっても貴重で大切である。だからといって失われた関係性は戻らない。だが、傷ついても、更に傷ついてもそこに「愛情」があれば、容易なことではないが、関係性の回復も可能なのかもしれない。

大阪の釜ヶ崎で日雇い労働者と共に生きてきた本田神父は「愛する」ということは他者を大切にすることだという。つまり、他者の存在を認め尊重することだというのだ。それを「愛情」の一つの定義とすれば、傷つけ合うという消耗する行為は少しは抑えられるのかもしれない。また、傷つき合わないためには、やはり、互いの距離の取り方であろう。「親しき中にも礼儀あり」とはよく言ったものである。もちろん日本という文化的文脈でのことであるが、距離の置き方はある種普遍的な課題かもしれない。どのような関係性であっても適度な距離を取ることは互いの成長のためにも必要のようだ。

Bette Midler の "From a Distance" という歌の中にGod is watching us from a distance という歌詞があるが、それぞれの関係性における距離の取り方を考え、同時に神は私たちが意識しなくても常に、同じ距離で私たちを見守っているという感性を持ち続けたいものである。

(宣教師、国際学部教授)

☆ チャペル・スケジュール ☆

時間 10:35～11:05 場所 各学部チャペル

6月6日(月) ランバスチャペルアワー②「きくチャペル」ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)

神 ランバスチャペルアワーに合流
経 「国連難民の日(6/20)を覚えて」舟 木 謙(宗教主事)
人 坂 口 幸 弘(人間福祉学部教授)
聖和 聖書物語「神さま、道をつくる」
理 前 川 裕(宗教主事)

6月7日(火) 神 堀 忠(神学研究科D1)

文 献血実行委員会によるチャペル
社 混声合唱団エゴラド
法 大 宮 有 博(宗教主事)
経 献血実行委員会
商 リコーダアンサンブル レアール 徳 田 真 二
国 献血週間をおぼえて 宗教総部献血実行委員会
聖和 野 口 啓 示(神戸少年の家前施設長、野口ホーム主宰)
理 上 内 鏡 子(神戸イエス団教会牧師)
総 李 政 元(総合政策学部教授)

6月8日(水) 神 シリーズチャペル「平和を創る」中 道 基 夫(神学部教授)

社 世界と出会う③大 岡 栄 美(社会学部准教授)
法 姜 安 娜(法学部事務室職員)
経 「経済と人間①」井 口 泰(経済学部教授)
商 邑久光明園訪問活動報告 宗教総部
人 嶺 重 淑(宗教主事)
国 音楽チャペル(1)ハンドベルクワイア
聖和 岸 本 朝 予(聖和短期大学非常勤講師)
理 関西学院室内合奏団
総 村 瀬 義 史(宗教主事)

6月9日(木) 神 <キリスト教音楽に触れよう①>水 野 隆 一(神学部教授)

文 Andreas Rusterholz(宗教主事)
社 献血実行委員会
法 大 宮 有 博(宗教主事)
商 Julius-Kei Kato(神学部、海外客員准教授)
国 Rev. Haruko Nawata Ward (Professor, Columbia Theological Seminary)
聖和 校歌「空の翼」を歌おう 関西学院グリークラブ
総 前 川 裕(理工学部宗教主事)

6月10日(金) 院 Julius-Kei Kato(神学部客員教授)

神 「震災を覚えて」礼拝③ 神学部メガホンプロジェクト
文 English Chapel Andreas Rusterholz(chaplain)
人 木 原 桂 二(北山バプテスト教会牧師)
理 前 川 裕(宗教主事)

◇ランバス早天祈祷会 毎週金曜日 8:20～8:40 ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)
6月10日(金) 学生生活動支援機構のために 伊 藤 正 一(学生生活動支援機構長)

●ランバスチャペル・ヌーンコンサート

西宮上ヶ原キャンパスの正門に入って右手に見えるチャペル「ランバス記念礼拝堂」では、礼拝はもちろん、コンサートや式典、講演会、卒業生の結婚式などが行われています。5月に入ると関学を代表する音楽団体による恒例のヌーンコンサートが開かれます。お昼休みのひととき、どうぞ耳を傾けてみてください。

6月6日(月) 関西学院大学応援団総部 吹奏楽部

6月9日(木) 関西学院ゴスペルクワイア Power Of Voice

いずれも12時50分～13時20分

ところ:ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原キャンパス)

主 催:宗教センター・宗教音楽委員会

●夏の献血週間のお知らせ

宗教総部献血実行委員会では、夏の献血週間を実施します。提供していただく血液は、兵庫県赤十字血液センターでの検査を経て医療現場に届けられます。皆様のご協力をお願いします。

<神戸三田キャンパス>

期 間: 6月9日(木)、10日(金)

受付場所: 体育館前

<西宮上ヶ原キャンパス>

期 間: 6月13日(月)～17日(金)

受付場所: 吉岡記念館ラウンジ

主 催: 宗教総部献血実行委員会

●オルガン音楽の泉 2016 Spring semester

パイプオルガンの響きに癒やお昼のひととき、どなたでもご自由にお楽しみください。

第10回 6月16日(木) 西山 聡子(本学オルガン講師)

第11回 6月28日(火) 松原 晴美(桃山学院大学オルガニスト)

第12回 7月8日(金) 山本 真希(りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館専属オルガニスト)

いずれも12:50～13:20[開場12:40予定]

ところ:関西学院中央講堂(125周年記念講堂)

主 催:宗教センター

●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急梅田駅から徒歩すぐ、アプローズタワー14階の大阪梅田キャンパスでは、大学院授業期間中の毎週木曜日にチャペルアワーを開催しています。(17:50～18:20 1405号教室)

6月主題:「インクルーシブな社会を目指して」

6月9日(木) 舟木 讓(宗教総主事・大学宗教主事)

6月16日(木) 山本 俊正(キリスト教と文化研究センター長)

6月23日(木) 舟木 讓(宗教総主事・大学宗教主事)

6月30日(木) 山本 俊正(キリスト教と文化研究センター長)

●夕べの祈りatランバス～テゼの音楽とともに～

ろうそくの光を灯して、テゼの歌を歌いながら、皆でこころ静かに過ごす夕べの祈りのひとときです。どなたでもご参加ください。

第2回 6月30日(木)18:30～20:00

ところ:ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)

主 催:夕べの祈り準備会(学生有志)

協 力:関西学院宗教活動委員会

●CD・DVDライブラリー

吉岡記念館事務室宗教センターには、教会音楽、キリスト教に関するCDやDVDを備えています。本学学生及び教職員(学生証または身分証明書が必要)であればどなたでも利用できます。希望者は事務室までお越しください。

●使用済み切手収集にご協力ください

本学では日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)切手部の活動に協力し、使用済み切手の収集をしています。通常切手も対象としていますのでどうぞ吉岡記念館常設の回収箱にお届けください。

●盲導犬育成のためご協力をお願いします

関西学院宗教活動委員会は、目の不自由な方々の社会参加促進を願い、社会福祉法人「日本ライトハウス」の募金活動に協力しています。吉岡記念館事務室ははじめ各学部カウンターに募金箱を用意しておりますので皆様の温かいご協力をお願いいたします。